

国立がん研究センターの推計によると、2019年の日本人の癌の発生数は101.7万人で、1位が大腸癌（15.5万人）、2位が胃癌（12.4万人）、3位が肺癌（12.2万人）だそうです。死亡数をみると1位が肺癌（7.7万人）になり、2位が大腸癌（5.4万人）、3位が胃癌（4.5万人）となります。胃癌の発生数は近年横ばいですが、検診などで早期に発見されるようになってきたことと治療方法の進歩で、死亡数は減少してきました。表紙に示したように胃癌の5年生存率は癌の進行度によって大きく異なり、ステージIでは94.9%ですが、ステージIVになるとわずか9.6%です。いかに早期発見・早期治療が大切であるかがよくわかります。なお、この生存率は胃癌以外の原因で亡くなった方も死亡に含まれるため、胃癌自体の5年生存率はもう少し高いです。また、胃癌は青森県、秋田県、山形県など東北の日本海側で多く発生しており、漬物などの塩分摂取との関係が指摘されています。

ピロリ菌のこと

胃癌の原因の9割はピロリ菌であり、ピロリ菌に感染している人はしていない人の5倍胃癌になりやすいといわれています。ピロリ菌が発見されたのは1982年と意外に新しく、その後急性胃炎や胃潰瘍、胃癌との関係が明らかになってきました。ピロリ菌は井戸水や川の水など自然界に在るといわれ、50代以上の日本人の70%以上がピロリ菌に感染していますが、20～30代は10～20%、10代では5%程度です。1週間薬をのんでピロリ菌を除菌すると、胃癌になるリスクは3分の1に減らせるといわれています。今後ピロリ菌の除菌が進めば、胃癌の発生数や死亡数は劇的に下がることが期待されます。若い人でピロリ菌を持っている人はぜひ除菌すべきです。ピロリ菌を持っているかどうかを、ぜひ調べてみましょう。



早期胃癌の治療法

胃癌の治療は、進行癌になってしまえば手術しかありませんが、胃の粘膜内にとどまる早期胃癌の状態で見つければ、内視鏡手術が可能です。胃カメラで胃の中から癌の部分だけを切り取ってしまう方法で、県立新庄病院でもたくさん行われており、ほぼ100%治すことができます。早期癌を見つけるのは検診のバリウム検査では困難で、内視鏡検査をお勧めします。内視鏡検査では1センチ程度の小さな早期癌でも見つけることができますし、万一見逃し（小さな早期癌は判別できないこともあります）があったとしても毎年検査を受けていれば進行癌になる前に発見することができます。

胃癌はどのくらいみつかるのか

当院では年間 500~600 件の胃カメラを行っており、開院以来 1 万件を超えています。これまで胃癌の診断は 109 例で、そのうち 67 例が早期癌でした。100 回検査すると 1 人胃癌が見つかるくらいの割合で、「結構いるなあ」というのが私の感想です。

胃カメラ検査

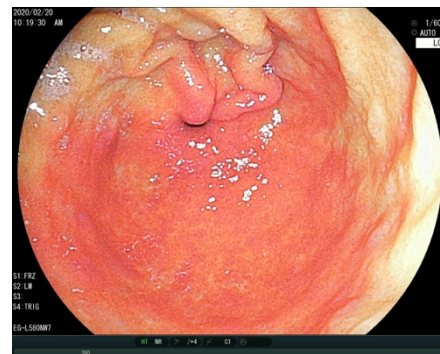
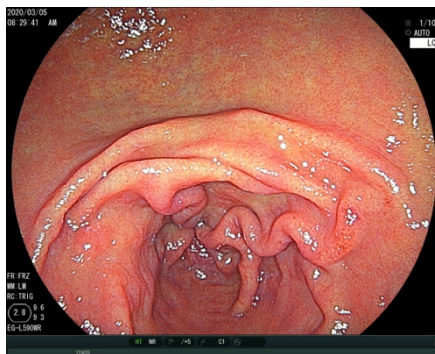
早期胃癌を見つけるには胃カメラ検査が必要ですが、胃カメラに対してみなさんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。最近鼻からの検査（経鼻）が多くなってきていますが、当院では 9 割が口からの検査（経口）を行っています。早期胃癌を見つけるには画像が鮮明であることが必要で、経鼻よりも経口の方が圧倒的に有利です。検査時間も経口の方が短くて、ほとんどの人は 3 分以内で終わります。検査の苦痛軽減に重要なのは最初にのどを通る時で、ここをスムーズに通過するとあとは比較的楽です。経験豊富な看護師や看護助手がなるべく楽に検査を受けられるようにサポートしています。1 年に 1 回 3 分だけの我慢なら、画質が鮮明な方がいいと思いませんか。

また、のどの反射が強い方や不安が強い方は、静脈麻酔で眠った状態で検査を行うこともできます。その場合は麻酔が十分覚めるまで、2 時間程度院内で休んでもらう必要があります。また事故をおこすと大変なので、自分で運転しないで家族などに送迎してもらってください。

経口

経鼻

胃
(LCI)



食道
(BLI)

